

---

# プロフィール

透之 皓

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
プロフィール

【Nコード】  
N9077N

【作者名】  
透之 皓

【あらすじ】  
軌夜>キリヤ<と憐>レン<と玲>レイ<  
転校してきたその学校で

## 自己紹介

### プロフィール

がやがやと皆が席を立ち

友達という名のクラスメイト達と話している昼休み。

僕らはいつもの同じ場所で集まっている。

ずっと

ずっと

まずは俺が自己紹介をしよう

名前：宮野 ミヤノ 斬夜 キリヤ

性別：男

特徴：カッコイイ系の顔立ち、たまにかける伊達眼鏡

性格：クールなリーダー系

一言：よろしく

んじゃ次は私

名前：啼崎 ナキザキ 憐 レン

性別：女

特徴：海のような長い髪の色、同じ色の瞳

性格：簡単に言えば副リーダー、剣術・武術は世界ランク

一言：よろしくね

はい！はい！次は僕

名前：リョウ之 玲レイ

性別：男

特徴：黒い帽子、背の低い童顔

性格：猫かぶり、ほんとは一人称、俺

一言：知っちゃったし、よろしく

そんな

奴らが仕組む事は何も無い

存在しない

ただの恋愛ストーリー

## 自己紹介（後書き）

自己紹介です。

これはね

自己紹介を「プロフィール」と呼んでいるわけではありません。

— 応関連性のあるものです

## 先生

「さあて、朝のホームルーム始めるぞ〜席つけ〜」

黒髪の白衣を着た顧問の男がいつものように言う

がたがたと席に戻る中教室を出ようとする者がいた

「おい、どこ行く気だ。今から始めるぞ。」

すかさず注意、ここは様になっている

気にせず生徒は教室を出た。

周りはあたり前のような顔

「はあ〜…ったく、しょうがねえな」

ほざきながらも先生は点呼を取りだした。

数分後生徒たちはざわめき始めた

理由は先生の言った一言だった。

「今日は転校生が来るぞ」

『転校生』

それに皆でざわめき始めたのだ

私たちはお構いなし

だって

私たちが転校生ですもの

## 紹介

「おい転校生入れっつてもう入ってるし」

「宮野ミヤノです」

「啼崎ナギサキレン憐レンです、よろしくお願いしまーすッ」

「僕、玲レイって言いますッ、よろしくね」

「じゃあこいつらが転校生」「軌夜やり直し」「憐、玲…お前ら…」

「チツめんどい…やだ」

…。

沈黙した。してしまった。

「オイ、さつさとやれよセンサー？」

「まあ、なんだかんだでこっちに来たそうだ。仲良くやれよ！以上」

先生の言葉が終わると何も言わず席を立つ生徒達。

決めておいた席に座ると軌夜には女子の群れが  
玲にも女子の群れ、あたしは…いない

まあ…別に良い…気にしては居ない

むしろ女子の多さが可哀相だと考えるくらいだ。

まあ…

暇だし…コレ渡しに行こうかな…  
来るのを待つか…

「あ、あの…転入生の啼崎さんだよね…？」

「あ、そうです。えっと…なにか？」

「よかつたらコレ…書いてくれないかな」

「あ、じゃあ私もお願いします！」

交換した一枚のカラフルな紙

それは

## 紹介（後書き）

それは

で終わらせてみたかっただけ。

はい、すみません。

第三話でした。

## 鍵

「可愛いね〜コレ良いねw、じゃあ」

「じゃあ、また」

ニコニコ笑いながら会話を終えると

青いペンを持って、さっき渡された紙を読み始めた。

最初に読むのは「好きなもの」の覧だ

食べ物・映画

埋めていく…

最後の項目の「色」は「青」

「あ…俺のも書いといてよ…」

「軌夜…ちゃんと書きなさい!」

「あ、俺も貰ってきたよ〜」

「渡したの〜?玲」

「渡さなかったら意味無いでしょw」

・・・何処と無く

「渡すの忘れたんだね…玲」

軌夜は隣で呆れ顔だ

「渡すときにやるよ」

逃げるように立ち去った…

「忙しくなりますかね〜？」

「男の子たちにも渡してこなきゃな…」

「手伝うか？」

「うん…多分大丈夫」

「これからの鍵は「プロフィール帳」

## 鍵（後書き）

4話では…あります。一応

「W」を使いました…使えると楽^^；

あせる時も「^^；」とか使えると良いんだけども…

流石にそれはな…

コメント…丁寧にしてくださいありがとうございますとございました><；

名前覚えやすい…自分の元名前だった…

名字は全然違うのですが…

またッ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9077n/>

---

プロフィール

2011年10月8日01時04分発行